

『たぬきの糸車』

1年

—音読と視写から、場面の様子や登場人物の行動を読む—

■ 設定の趣旨

低学年の児童は、音読が大好きである。授業の中で、何度も声に出して読み重ねていくうちに、その児童の内容の読みが、読み声に表現されるようになる。自分の思いを言葉で表現することの難しい一年生でも、感じたり考えたりしたことを声に乗せることができる。また、友達の読む声から感覚的に読みを深められることもある。低学年の音読の主な目的には二つある。一つは、自分が理解するために音読すること、二つめは、相手に伝えるために音読することである。

「たぬきの糸車」は、リズムをもって繰り返される「キーカラカラ キーカラカラ キークルクル キークルクル」(擬音語・擬態語)という糸車の音が大きな意味をもつ。この音を児童たちがどんなふう工夫して読むかで、教室がお話の世界に入っていけるかが決まる。三学期のまとめの時期に、一年生がこれまでに学習したことを生かし、楽しく音読で表現できるような授業展開を考えた。

この学習を通して、たぬきのかわいしぐさやその様子に思いを寄せながら、おかみさんとたぬきの温かい心のつながり、そして、声に出して読むことの楽しさを、音読を通して子どもたちが感じてくれたらと思う。民話のもつ世界、温かく優しい世界、読後感に浸らせていきたい。

■ 指導目標

- 話のおもしろさに加え、独特の語り口調や言い回しなどにも気づき、親しみを感じていくことができる。 【知識及び技能】
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 【知識及び技能】
- 場面の様子や「誰が何をした、どのようなことを言った」など、登場人物の行動や会話などを手がかりとしながら、内容の大体を捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- これまでの学習を生かし、登場人物に寄り添い場面の様子を想像しながら音読を楽しむことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

■ 指導計画（8時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点と評価規準・評価方法
1	1	<p>○教師の全文通読を聞き, 思ったことやすきな所を書く。(初発の感想を書く)</p> <p>・事前にデジタル教材で糸車の動画を見る。</p>	<p>・自分の言葉で書かせる。</p> <p>・発表させる。(理由が書けている児童には必ず発表させる)</p> <p>【思考・判断・表現】 ノート</p> <p>○自分の感じたことを表現できているか確認する。</p> <p>*児童の感想を場面読みで紹介することもある。</p>
	2	<p>○難語句の確認をする。</p>	<p>・座席の順番に読ませる。(事前にどこで区切るかを全員で確認しておく)</p> <p>・重要な言葉を確認させる。</p>
	3	<p>○机間指導をする。(物語のあらすじをとらえる)</p> <p>・座席の順番で全文通読をする。</p> <p>・各場面の挿絵を見ながら, たぬきがしたことは何かを話す。</p> <p>・上記で出た言葉を場面ごとに, 教師と一緒に視写する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;"> 六 五 四 三 二 一 お つ わ ま いた どり む 〇 な ね ず り め ぐ ながら なが ら </p> </div> <p>・場面ごとに確認していく。</p> <p>発問・おかみさんの糸車がたぬきの糸車になったのはどこの場面からでしょう。</p>	<p>・物語の展開(冒頭部—問題—解決—終結部)を捉えるために挿絵を活用する。</p> <p>・地の文(ナレーターのように淡々と)</p> <p>・会話文(声優になって)</p> <p>・マスいっぱいにていねいに書き写させる。</p> <p>【知識・技能】 観察</p> <p>○たぬきのしたことを理解しているか確認する。</p> <p>声に出して読むことが楽しいことを味わわせたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【声に出す楽しさ】例えば,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム(手拍子・リズム楽器で) ・イントネーション(いろいろかえて) ・テンポ(速く・ゆっくり) ・擬音語・擬態語(カードに書いて) ・会話文と地の文(読み手を変えて) </div>
2	4	<p>一, 二の場面(物語:冒頭部)</p> <p>○おかみさんの回す糸車を見ているたぬきのかわいい様子を想像して読む。</p> <p>発問・いたずらより楽しいものを見つけました。それは何ですか。どの言葉からわかりますか。</p>	<p>視写する文章</p> <p>『糸車がキークルクルとまわるにつれて, 二つの目玉も, くるりくるりとまわりました。そして, 月のあかるいしょうじに, 糸車をまわすまねをするたぬきのかげがうつりました。』</p> <p>・たぬきが目玉を回す様子を動作化させる。</p> <p>【思考・判断・表現】 観察</p> <p>○たぬきの様子を想像するために行動や場面の様子を読めているか確認する。</p>

	5	<p>三、四の場面（物語：展開部一事件）</p> <p>○たぬきを助けるおかみさん、会話文や行動から、場面の様子を想像する。</p> <p>発問・おかみさんは、たぬきのことをどう思っているのでしょうか。</p> <p>発問・たぬきは、おかみさんのことをどう思っているのでしょうか。</p> <p>発問・冬の間、たぬきは何をしていましたか。</p>	<p>視写する文章</p> <p>『「かわいそうに。わなになんかかかるんじゃないよ。たぬきじるにされてしまうで。」』</p> <p>【思考・判断・表現】ワークシート</p> <p>○登場人物の会話や行動を手がかりに内容の大体や場面の様子が読めているか確認する。</p>
	6	<p>五の場面（展開部一解決に向かう）</p> <p>○糸を紡ぐたぬき、繰り返される言葉や行動から、場面の様子を想像する。</p>	
	7	<p>六の場面（物語：終結部）</p> <p>○踊りながら帰っていくたぬきの行動からその様子を想像する。</p> <p>発問・たぬきは、どうしてうれしくてたまらないのでしょうか。</p> <p>発問・うれしいのはたぬきだけですか。</p>	<p>視写する文章</p> <p>『たぬきは、ぴよこんとそとにとび下りました。そして、うれしくてたまらないというように、ぴよんぴよおどりながらかえっていきましとさ。』</p> <p>【思考・判断・表現】ワークシート</p> <p>○登場人物の行動を手がかりに内容の大体や場面の様子が読めているか確認する。</p>
3	8	<p>○音読発表会をする。</p>	<p>・グループで役割などを決めて練習をさせる。</p> <p>【思考・判断・表現】観察</p> <p>○学習したことを音読に表現できているか確認する。</p>

■ 指導のポイント

〈第 6 時の扱い〉

学習活動	教師の働きかけ
<p>1, 座席の順番で全文を読む。</p> <p>2, 話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあて「たぬきのきもちをかんがえよう」 ・春になって戻ってきたおかみさんが見た物、聞こえてきた音について話し合う。 <p>発問・どんな音が聞こえてきましたか。</p>	<p>【知識及び技能】観察</p> <p>○内容の読みを音読に表現できているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかみさんの挿絵を用意する。 ・山のような糸の束をみんなで動作化させて量感を感じさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>キーカラカラ キーカラカラ</p> <p>キークルクル キークルクル</p> </div>

3, 五の場面の範読をする。

4, 教師と一緒に視写する。

『そっとのぞくと、いつかのたぬきが、じょうずな手つきで、糸をつむいでいるのです。たぬきは、つむぎおわると、こんどは、いつもおかみさんがしていたとおりに、たばねてわきにつみかさねました。』

5, 視写した板書を全員で読む。

6, たぬきの気持ちを話し合う。

発問・「いつかのたぬき」からおかみさんはどんなたぬきを思い出したのでしょうか。

発問・たぬきはどのようにしてこんなに上手になったのでしょうか。

・ワークシートに考えたことを書く。

発問・たぬきは糸を紡ぎながらどんなことを考えていたのでしょうか。

・考えたことを発表する。

発問・どの言葉からそんなふうに思いましたか。

・おかみさんの糸車の音とたぬきの糸車の音を比べる。

7, 振り返り

・四と五の場面を読む。

と書いた紙を貼り、読ませる。

・教師と同じスピードで、精いっぱいの子を書くように声をかける。

【知識・技能】ノート・観察

○精いっぱいの子でていねいに書いているか確認する。

・物語の展開（事件から解決）をもとに場面の様子を想像しながら、心を合わせて読むことを伝える。

・会話文や行動を手がかりにおかみさんはたぬきをかかわいく思っていることを押さえる。

・冬の間はずっと練習していたことなどを押さえる。

・自分がたぬきだったらどう思うかを考えさせる。

【思考・判断・表現】ワークシート

○物語の展開をもとに、登場人物の行動や繰り返されるリズムのある言葉（擬音語・擬態語）からその様子を想像する。

キーカラカラ キーカラカラ

キークルクル キークルクル

と書いた紙を貼り、先に貼った紙とこちらの紙の両方を読ませる。

* 黒板の前と後ろに同じ糸車の音の紙を 2 枚貼り、視写した文章をまん中にして考えさせる。

・二つの音は同じで、その音が同じになったことでお互いの心が通い合ったことを押さえる。

・もう一度糸車の音を読ませて自分の読みで確認させる。

・今日、学習したことを思い出しながら読み、聞く。

■ 後記

低学年の授業では、挿絵やお面などを使って興味や関心をもたせることも大切である。1時間の中に、お面を使って動作化をする、挿絵を使ってお話をするなどの活動を入れると効果的である。

ワークシートは、児童に書きたい気持ちにさせるように吹き出しをつけたものや登場人物の絵を入れたものを作る。